

食事以外は全て本堂に籠り護摩などの単調かつ過酷な毎日を繰り返していた。密教にもいろいろな行法があるため予習と復習が欠かせない。それに加えて道場荘厳という、本堂の準備も限られた時間で行なわなければならない。まさに無我夢中であり、辛い、眠いと弱音を吐く暇さえなくなっていた。

さらには三千仏礼拝行という、三千の仏の名を唱えながら三千回五体投地をする行も行なった。人目を遮るために扉を締め切り、熱気が充満した灼熱の堂内であるため意識がもうろうとする。膝や足に支障をきたして断念する仲間もいたが私は必死で耐え忍び、乗り切ることができた。この三千仏礼拝行は自分自身の限界に挑んだ荒行であった。

もうひとつ大きな行として、回峰行コースを巡る三塔巡拝が挙げられる。比叡山には東塔、西塔、横川の3つのエリアがあり、まんべんなく巡ると比叡山を一周できる。通る道は峰道や駄道であり、千日回峰をされる行者はここを毎日歩く。私は加行前には大正大学の法儀研究授業の一環として2度三塔巡拝を行なっている。そのときは、より実際の三塔巡拝に近い形として、夜間に懐中電灯の灯火だけを頼りに巡拝をした。加行時は昼間の回峰であったが、約25kmの道のりは体力を要した。

合計60日間の加行を通して言えることは、全てが自分のための行であったということだ。行監の先生から「師僧や家族のためではなく、僧侶を志す自分自身のための行だ。」と何度となく諭された。誰もが臨むことのできないこの貴重な行の意義を大切にしたいと思う。今後私は入壇灌頂や円頓受戒などの行を行なうにあたり、加行を終えたときの清々しい気持ちを忘れずに持ち続けたと思う。

神職養成の概要と課題

松本 丘

1 神職資格（階位）

「神職」とは、特定の神社に所属して祭祀を執行する者の総称であります。神職の職名には、一社の長たる「宮司」、その指揮監督を受ける「禰宜」「禰宜」などがありまして、女性神職も共通であります。ただし、「巫女」は神職の範囲に入らず、特に資格は必要とされていません。

一般にいわれている「神主」「神官」などは、歴史的に使われてきた通称でありまして、「神官」は厳密に言えば、戦前において純然たる国家官吏であった伊勢の神宮の職員を称する語でありました（昭和21年廃止。ただし、明治4～27年はすべての神職を「神官」と呼称）。

神社本庁は、神社の国家管理停止に伴いまして、全国神社の包括組織として昭和21年に設立されました。現在約8万の神社が包括下にありますが、その神社の神職たるには、神社本庁が授与する神職資格（階位）が必要となります。これは、それまで政府または地方長官が行なっていた神官・神職の任命を引き継いだものです。

階位

神職の階位に関しましては、神社本庁の設立当初は浄・明・正・直の4段階でした。その名称は古代の宣命に見える語に基づいています。浄階には勅任または勅任待遇以上の神官・神職等、明階には奏任または奏任待遇以上の神官・神職等に授与されるなど、それまでの等級・資格に応じて切り換えが行なわれたわけです。

現在、神職資格には、浄階・明階・正階・権正階・直階の5段階が設けられ

ておりまして(昭和36年に権正階追加)、神社本庁に設けられた階位検定委員会により検定が行なわれ、合格後、所定の神務実習を修了し、授与の申請をすると、はじめて階位が与えられます。

なお、神社本庁『役職員進退に関する規程』中の「別表に掲げる神社」(旧官国幣社等の大規模神社)の宮司・権宮司の任用には明階、その他の神社宮司及び別表神社の権禰宜の任用には権正階以上の取得が必要であるとされています。

階位取得の方法

最上位の淨階は、神職経歴、功績等の資格要件を具備する者に授与されますが、明階以下の階位検定には、試験検定と無試験検定によるものがあります。

イ. 無試験検定

- A 神職養成機関の課程を修了する
- B 階位検定講習会を修了する
- C 神職養成通信教育を修了する

ロ. 試験検定

- A 階位検定試験に合格する

イーAの神職養成機関は、現在以下の通りとなっています。

- ・皇學館大学(三重県・神宮皇學館として明治15年創立、昭和15年官立大学となるが、21年廃校、37年私立大学として再興)
- ・國學院大學(東京都・明治15年皇典講究所として創立、大正9年大学に昇格)
- ・熱田神宮学院(愛知県・昭和25年熱田神宮普通神職養成所として創立、43年現在名に改称)
- ・京都國學院(京都府・明治18年京都皇典講究所分所として創立、昭和30年学校法人認可)
- ・志波彦神社しおが彦神社神職養成所(宮城県・昭和5年神社実務実習施設として創立、昭和18年神職養成所となる)

- ・神宮研修所(三重県・明治15年創立の神宮皇學館の流れをくみ、昭和44年に現在名にて発足)
- ・大社國學館(島根県・昭和13年発足)
- ・出羽三山神社神職養成所(山形県・明治16年皇典講究所山形分所として創立、昭和37年神職養成所となる)

このうち皇學館・國學院両大学の養成課程は、高等課程・専攻課程Ⅰ類・同Ⅱ類・明階総合課程の四課程からなっておりまして、高等課程及び専攻課程Ⅰ類修了者は「明階検定合格正階授与」、専攻課程Ⅱ類修了者及び明階総合課程修了者は「明階検定合格明階授与」となっています。

その他の養成機関には、予科・普通課程Ⅰ類・同Ⅱ類・専修課程(京都國學院のみ)が設置されておりまして、予科修了者には「直階」、普通課程Ⅰ類修了者は「権正階」、普通課程Ⅱ類修了者には「正階」が授与され、専修課程修了者は「明階検定合格正階授与」となります。

なお、國學院大學には、正階・権正階を取得できる「別科神道専修」コースも設けられています。(図III-1参照)

イーBの階位検定講習会は、皇學館・國學院の両大学と、各都道府県に置かれている神社庁にて開催され、大学では正階・権正階・直階、神社庁では権正階・直階の講習会を受けることができます。期間は約1カ月で、それぞれの受講資格は、正階の場合は権正階、権正階の場合は直階を有することが条件となります。

イーCの通信教育課程は、財団法人の大阪國學院(大阪市、昭和52年創立)に設けられておりまして、2年間で権正階を取得できます。また、直階から権正階に昇階するための1年間課程もあり、年齢が満25歳以上、65歳以下、高等学校卒業以上が条件となります。

ローAの試験検定は、明階・正階・権正階の階位について、定期と臨時の年2回、神社本庁と各神社庁にて行なっています。そのうち明階検定の試験科目は下記の通りで、方式は記述式、祭式・行事作法は実技を伴います。これらは皇學館・國學院における養成課程の科目とほぼ重なっています。

神道概論・神道史・神道古典・神道文献・神道神学・祭祀概論・祝詞作